# 宿根草花の種類と作り方

奥村実義

プリムラ・ベリス（せいようさくらそう）

開花結実を終えて地上部の茎葉が枯れてしまつても、地ぎわや地中に〃芽〃と〃根〃が生き残り永年生存しつづける草花――すなわち〃株〃が残つていて毎年芽を出し花を咲かせる草花を宿根草花という。

北海道のような寒地では秋播一・二年草の越冬が殆ど不能なため、春から初夏の庭や花壇は勢い宿根草花や秋植球根草花に負うところが大きく、宿根草花は比較的寒さに耐え、強健で育て易い種類に恵まれているから大いに栽培して楽しむべきであろう。

**耐寒性宿根草花の主な種類**

宿根草花は露地に植えたまま越冬し得るか否かによつて耐寒性宿根草と非耐寒性宿根草にわけられる。勿論この分け方は栽培地の気候風土によつて変つてくるもので、北海道のような厳しい冬を過さねばならない地方では殊更注意しなければならないが。なかには却つて夏の暑さを嫌うため寒地に適した種類も少なくない。

**西洋桜草**――さくらさう属のものはわが国にも自生種が多く、さくらさう（日本桜草）は古く江戸時代に大いに親まれ著しく発達した代表的花卉の一つである。この他えぞこざくら、くりんさうなどの在来種も山草として親しまれているが、近年はいわゆる〃西洋桜草〃と呼ばれる数種のさくらさうが移入せられ露地で作り易いものも多い。ブルガーリス（プリムローズ）、デンチクラータ（かさざささくらさう）、ポリアンタ（くりんざくら）及びベリス（せいやうさくらさう）などが栽培され、これらの中には多年改良が加えられた優秀な品種が多い。草丈は三～八寸位で五・六月頃に紅、桃、黄、白などの花をながく咲かせる。いずれも強烈な日射を嫌い高温に弱く水湿を好むから、半日蔭の腐植質に富んだ乾燥しない場所に植えたい。実生は採りまきがよく、播種箱か平鉢を用いて叮嚀に行い、夏の間出来るだけ涼しい半日蔭で育苗して九月に定植する。また秋に株分けすればごく手数がかからずに繁殖出来る。

**モス・フロックス**――セタナリアの呼び名で親まれ、花色はピンクと白が多いが青みがかつた品種もある。草丈一～三寸位で五月頃無数の小さな花が咲き、毛せんを敷きつめたように一面に地を覆う。石の間、岩かげ、花壇の縁取り、毛せん花壇などに用いられ、排水のよい所ならばよく育つ丈夫な草花である。花が終つてから株分けしてもまた床を設けて地挿してもよい。たまたまこの時季は夏にぶつかるので日覆いと灌水に注意し、風通しをよくしてむれないように心がける。

**アイスランド・ポピー**――ちしまひなげしともいい、草丈は一尺余、五月半ば過ぎ頃から六月に橙、黄、白などの鮮かな花を沢山咲かせる。切花も出来る。種子の稔りもよく非常に小さな種子ではあるが、〃くせ〃がないから実生は容易である。春に鉢にまくかあるいは直播してもよいが、播いた後覆土は要らず、よく鎮圧しておくだけでよい。沢山発芽してくるから早めて間引いておくことが肝要である。

**アイリス類**――わが国では古くから親まれている宿根アイリス類には、はなしようぶ、いちはつ、かきつばた、あやめ、しやがの類などがある。はなしようぶは江戸時代から非常に改良されて品種も多く、日本花卉の代表的なものの一つである。かきつばたと共に水湿地を好み、乾燥地を好むあやめ、いちはつとこの点で大いに違うから注意を要する。

洋種の宿根アイリスはジャーマン・アイリースにつきよう。この呼び名は本来のイリス・ゲルマニカ（ドイツあやめ）の他、

パリーダ（しぼりイリス）、フローレンチナ（にほひイリス）など根茎をもつ幾つかの欧州原産の類似種及びその種間雑種などをも含めた園芸種を指し、草丈一〜一尺五寸、白、黄、淡桃、桃、紫、青、藤、栗色など花色も豊富で、六月頃相ついで咲く。排水のよいややアルカリ性土壌を好み、酸性地では生育は劣るから矯正してから植えた方がよい。繁殖力は旺盛で〝しようが根〟のような根茎を年々叉状に伸ばしてはびこるから、三〜四年に一度全部掘り上げて古い根茎を取除き新しい根茎だけを植える。時期は花の終つた後がよく、九月始め頃までには終えた方が翌年の生育がよい。また急速に沢山の株を殖したい場合は、新しい根茎をいくつにも切つて湿した砂に伏せておくと不定芽が生じてくるからこの方法を利用すればよいが普通には余り行われない。

**西洋おだまき**——西洋尾長おだまきとも呼ばれ、初夏の花壇、切花向宿根草花である。北アメリカ原産のカナダおだまき、きばなおだまき、そらいろおだまき（コールレア）、ロンギシマなどやその改良種さらに種間雑種などを含めた呼び名で花色も多い。殊にロンギシマ・ハイブリッド、ロング・スパー・ハイブリッドは距（スパー）が長いので花の形がすばらしい。ブリュー・シェーデス（青色系）、ピンク・ビューティー（桃色系）、カッパー・クイン、クリムゾン・スター（赤色系）、スノー・クイン（白色）、ロンギシマ（黄色）など品種が多く、草丈二〜三尺に達して六月中旬頃一斉に咲き乱れる。水湿を嫌い、また夏の強烈な日射と高温に弱いから腐植質に富んだ排水のよい砂質壌土で、真夏は少々日蔭になるような所が望ましい。これらの品種は種子もよく稔り、春播きすれば翌年から開花する。

**ドイツすずらん**——鈴蘭と呼ばれて親しまれているきみかげさうは、北海道ではあちらこちらに雑草として自生しているが、これに似て優るものに欧州のドイツすずらんがある。花もやや大きく、香気もすぐれているので園芸的には専らこの方が用いられる。草丈五〜八寸位で六月頃光沢のある葉かげに純白の可憐な花をのぞかせ、暖地では到底楽しめないものである。多年改良されて八重咲の品種や淡紅色の品種などがある。いずれも半蔭地で腐植質に富んだ水湿ある粘質壌土に適する。また日光の直射を強く受けるような所では、夏季に乾燥と地温上昇による衰弱を避けるため「もみがら」や「そばから」などで一〜二寸位マルチング（被覆）してやるとよい。移植を嫌うから株分は四年に一回位、秋に掘り上げて地下茎を整理し直ちに芽（ビップ）を浅く植え付ける。

ドロニクム

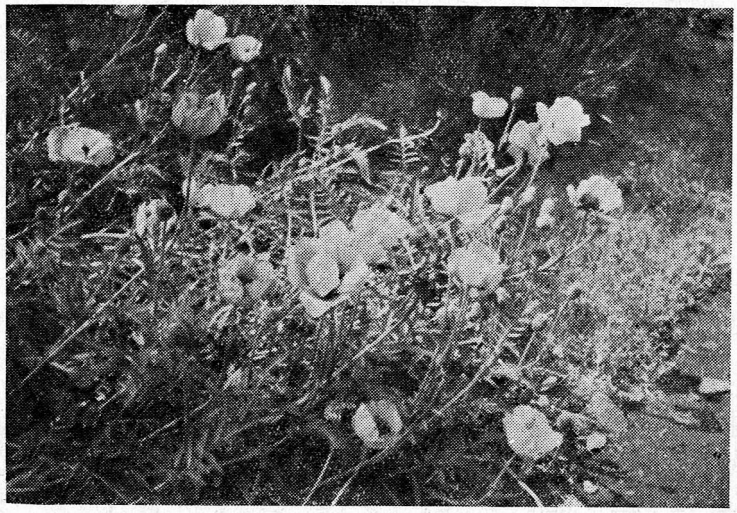
**ラッセル・ルーピン**——イギリスにおいてラッセルという人が改良した宿根ルピナスで、一般に昇り藤の呼び名で親まれている。花穂の見事なことは数あるルーピンの中でも随一である。草丈三〜四尺に達し、六月頃に長大な花穂を何本も伸して一斉に咲き昇る。花色は桃、濃桃、白、紫、藤色などの美しい複色で鮮かである。排水良好、肥沃な腐植質土壌を好み、日当りのよい場所がよい。株分けによつても殖すことが出来るが、もともと移植を嫌う方であるから根を傷めぬよう注意深く行わないと株が衰弱し易い。種子もよく稔り実生も行われる。種子には粳粒があるから、一旦水をすわせてふくれない種子は上手に種皮を傷つけてまく。発芽すると直根が深く伸び、移植の際これを切断して弱らせる結果になるから、鉢仕立して定植するかあるいは湿した砂の中乃至ぬれタオルの間などで催芽して定植すべき所に直播してもよい。

ラッセル・ルーピン　手前の白い花はジャーマンアイリス

**宿根飛燕草**——今日栽培されている宿根

ひえんさうの大部分は交配種である。ジャイアント・パシフィック系、フロラデール・ジャイアント系に属する品種が多く、四〜六尺に達する花穂を株ごとに十数本も伸ばして六月下旬から七月にかけて咲きつづける。花色は青色系が多く、淡桃紫色、藤紫色、白色などもあるが淡青色乃至コバルト色の花が最も喜ばれる。八重咲、半八重咲種もあり近年着々と改良されている。夏の暑さに弱く暖地では生育が思わしくないが、北海道では雄大な容姿となつてその鮮明な青さは初夏の花壇に欠くべからざる存在である。実生は概して発芽が悪く思つた程苗が得られぬことがある。また育苗中殊に真夏は出来るだけ涼しく経過するよう努めたい。株分けも出来るが、春の萌芽が三〜五寸位に伸びた頃砂挿しても活着する。花の終つた後茎を刈り取ると再び新茎が伸びて秋にやや小さくはなるが花穂をつける。この芽が三〜五寸位のとき春と同様に挿しても活着するが北海道では秋までに越冬し得るだけの苗になるかどうか疑問である。

**宿根フロックス**——いわゆる八月盆の前後に到る所にみられる彩やかな草花で、くさけふちくたうのことである。草丈三〜四尺に違し、硬い茎の頂上に彩やかな色彩の花をもり上げるように沢山咲かせるから人目につき易い。花色は白、淡紅、紅、青紫色など種々ある。性質は強健で殆ど土質をえらばないが概して日当りがよく排水のよい所がよい。株分けも出来るが挿木してもよく、また実生すると種々な花色のものが現われて面白い。夏の比較的草花の乏しい時期でもあり、盆を控えて切花にも重宝である。



鬼　げ　し

### 植え方とふやし方

**実生**は、暖地では秋播されるものが多いが、北海道では秋播しても冬までに越冬可能なだけ根張りのよい苗を得ることは難かしく、一般に春播を行う。勿論種類によつて発芽の温度条件に〃くせ〃のあるもの、例えばしやくやくなどの場合は秋播きするが、概して春に播くものが多い。また株の植え付けも寒地の気候風土を考えあわせて、秋ならば九月頃、春ならば出来るだけ早く行つた方がよい場合が多い。これもまた勿論種類によつて異なり、ジャーマン・アイリス、トリトマ、アルメリア、モス・フロックスなど花後早く行つた方がよいものもある。

**適地**は、はなしようぶ、かきつばたなどは湿地を好み、トリトマ、リオン、アコニタム、ふくじゆさう、プリムラ類、ひなぎく、すずらん、しやくやく、アスチルベ、宿根フロックス、しゆうめいぎくなどはやや水湿ある乾燥しない所を、またアラビス、モス・フロックス、アルメリア、ジャーマン・アイリス、いちはつ、なつゆきさう、宿根かすみそうなどは乾燥地を好む。更にふくじゆさう、プリムラ類、すずらん、ひなぎく、西洋おだまき、みやこわすれ、アスチルベ、アコニタム、リオン、しゆうめいぎくなどは半日蔭か夏の強い日射を受けない所がよいが、アラビス、ラッセル・ルーピン、きく類などは日当りのよい場所を好んで生育する。

**肥料**は、基肥としてよく腐熟した堆厩肥と共に魚粕、骨粉などを多目に含んだ三要素配合肥料を施すのが望ましいが、とくに難しい要求はない。ただ未熟なものを根にふれさせて失敗しないようにする。また宿根草花の多くは一度植えると何年間か植えつ放しになるから毎年春に株の周囲を軽く中耕して追肥したい。軽度の酸性土壌はジャーマン・アイリスを植えるのでなければ差支えない。またいちはつ、しやが、べんけいさうの類などは瘠地でもよく生育するものである。

**株分け**ジャーマン・アイリスのように叉状に根茎がのびるものの株分けは〃また〃の所から適当に切りはなして分ける。しやくやくやルーピンのように幾本もの太い根が張つてその頭部に芽が着生するものでは、数芽ずつつけて二〜三本の太い根がある程度がよい。赤花除虫菊、トリトマなどのように根が繁つているものは縦に株を割り、すずらん、かくとらのを、朝鮮よめななどのように地下に走茎のあるものはこれを適当に切断してそれぞれ数芽宛にわけられる。

**株分けの時期**は移植、植込みの適期と同時期であり、一般に春から初夏にかけて開花する草花は花後から秋まで、秋に咲くものでは春早く行われる場合が多いが、種類によつて幾分異なる。またすずらん、ルーピン、しやくやく、けし類、にわはなびなどはいずれも移植を嫌い、粗雑な取扱いをすると著しく株が衰弱するから注意深く叮嚀に行う。根茎の出来るもの、地下に走茎のあるものなどは移植に強く、繁殖力も旺盛で往々にして雑草の如く手を焼くものである。

**挿芽**は既に少しくのべたが、この他アラビス、アルメリア、なつゆきさう、シャス

## 主要なる宿根草花一覧表

| 草花名 | 開花期 | 草丈（寸） | 花色 | 繁殖法その他 |
|---|---|---|---|---|
| アラビス | 五～六月 | 三～五 | 白、桃、黄 | 株分、挿芽、実生、強健。 |
| ドロニクム | 五月頃 | 一〇～一五 | 黄 | 株分、切花にもよい。 |
| アルメリア | 五～六月 | 三～五 | 桃、紅、紫紅、白 | 株分、挿木、株が年毎に浮き上るから土を入れるか更新する。 |
| ひなぎく | 五～六月 | 二～三 | 赤、桃、白 | 株分、実生、花のよいものは株分による。夏に衰弱し易い。 |
| 赤花除虫菊 | 五～六月 | 二〇～三〇 | 赤、桃、白 | 株分、実生、株が古くなると弱るから早めに株分する。 |
| インカルビレア | 六月頃 | 一五～二〇 | 桃 | 株分、実生。実生後三年位経ないと良い株にならない。 |
| シャスタ・デージー | 七月頃 | 二〇～三〇 | 白 | 株分、実生、挿芽、良い品種は株分、挿芽による。 |
| ボーダー・カーネーション | 七月頃 | 一〇～二〇 | 赤、桃、白 | 株分、実生、挿木、良い花のものを挿木でふやす。古株は更新の要あり。 |
| ヂギタリス | 七月頃 | 三〇～四〇 | 黄、白、紫紅、斑点あり | 株分、実生。 |
| みやこわすれ | 七月頃 | 一〇～二〇 | 淡青、桃、白、紅、紫 | 株分、挿芽、品種が多い。 |
| 宿根かすみ草 | 七月頃 | 一五～二〇 | 白 | 株分、挿芽、根接、実生、八重咲種は根接による場合多し。 |
| はりなでしこ | 七月頃 | 五～八 | 桃 | 株分、強健、花壇用。 |
| トリトマ | 七月頃 | 二〇～二五 | 橙、橙黄 | 株分（夏）、切花にもなるが、姫トリトマの方が好まれる。 |
| るり玉あざみ | 七～八月 | 三〇～四〇 | 淡青 | 株分、実生、種子はしいなが多い。 |
| 鬼げし | 七～八月 | 二〇～二五 | 赤 | 実生。株分は好ましくない。 |
| 桔梗 | 七～八月 | 三〇～四〇 | 白、紫 | 株分、実生。五月雨桔梗及びマリエッシーは早生種。 |
| ひあふぎ | 七～八月 | 二〇～三〇 | 橙黄 | 株分、実生、切花にもよい。 |
| アメリカふよう | 八月頃 | 三〇～五〇 | 赤桃、白 | 株分、実生。 |
| にわはなび | 九月頃 | 二〇～三〇 | 藍色 | 株分、実生、根接、ふえにくい。 |
| しおん | 九～十月 | 三〇～五〇 | 青紫 | 株分、降霜後まで咲く。 |

タ・デージー、みやこわすれ、ボーダー・カーネーション、ペントステモン及びきく類などでも行われ、ふくじゅさうでは層状の根を分離して伏せ隠芽を発芽せしめたり、ひまらやゆきのしたの根茎挿しなども行われる。

さらににわはなび（スターチス・ラチホリア）や八重咲宿根かすみ草では根接ぎも行われる。

**実生**が普通に行われる宿根草花は多く、既に述べた他アラビス、赤花除虫菊、ひなぎく、インカルビレア、ヂギタリス、ゲラルデア、ボーダー・カーネーション、るり玉あざみ、ひあふぎ、立葵、鬼げし、ペントステモン、アンチューサ、宿根セントーレア、桔梗、えにしだなど数多く、いずれも種子が市販されている。

### 病虫害など

宿根草花には特に蒙り易い病虫害というものはない。他の農作物や蔬菜、草花と同じように考えてやればよい。ただ、比較的丈夫な性質のものが多く少し位の病虫害に耐えられるからといつて全くのなげやりも往々失敗を招く。殊に密植になりがちで茎葉が軟弱になるとそれだけ害を受け易いから時折整理して余分なものは除き風通しをよくすること、及び冬がくる前に枯れた茎葉や冬に枯れる茎葉をすつかり刈り取つて焼き捨て、病菌や害虫の越冬を除くことは庭の手入れの面からも是非励行したいものである。

（北大農学部園芸学教室）

### 宿根草花種子価格表

| | | 1袋 円 | 1匁 円 |
|---|---|---|---|
| ○2 | 年草 | | |
| 金魚草 | 高性大輪混合（寒地一年草） | 20 | 200 |
| 黄花香あらせうとう | チェランサス | 10 | 80 |
| 石竹 | ダイアサンス（寒地一年草） | 20 | 110 |
| 三寸石竹 | 美色混合（寒地一年草） | 30 | 150 |
| マトリカリヤ | ドワーフボール | 20 | 160 |
| わすれな草 | ミヨソチス　藍色 | 10 | 150 |
| パンジー巨大輪 | スイスジャイアント | 50 | 500 |
| パンジー大輪 | トリマジュー | 20 | 160 |
| ○多 | 年草 | | |
| アンチユサ | カペンシス | 10 | 100 |
| 尾長おだまき | ロングスパー | 20 | 300 |
| 大輪ひなぎく | 改良種 | 20 | 100 |
| 宿根金鵄草 | ランセオラータ | 10 | 50 |
| 桃花宿根矢車草 | デールバータ | 10 | 80 |
| 桃葉桔梗 | パーシキホリヤ | 10 | 100 |
| 宿根かすみ草 | パニキュラタ | 20 | 150 |
| 芳香大根草 | スイートロケット | 10 | 80 |
| 宿根立藤ラッセル | 混合 | 10 | 100 |
| 桔梗 | 大輪紫花 | 10 | 80 |
| 早生桔梗 | マリエシー | 10 | 100 |
| 赤花除虫菊 | ピレスラム | 10 | 120 |
| 大輪おにけし | オリエンタルポッピー | 10 | 80 |
| えにしだ | 金雀花 | 10 | 60 |